

平成27年 6月17日
国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
名古屋港湾事務所

南米チリ共和国の港湾研究者が清水港、名古屋港を視察しました ～日本の「地震・津波の防災・減災対策」を活かす～ (開催報告)

1. 概要：

中部地方整備局では、独立行政法人国際協力機構(JICA)の地震・津波の防災・減災対策の研修の一環として、国立研究開発法人港湾空港技術研究所で学ぶチリ共和国港湾研究者2名とともに研究所研究者3名を清水港及び名古屋港にて受け入れ、地震・津波の防災・減災対策と港湾施設の説明を行いました。

チリ共和国港湾研究者は、チリ・カトリック教皇大学職員(工学博士)及びチリ国立水理研究所(海洋学者)の2名で、6月10日に訪れた清水港では、地震・津波の防災・減災対策の概要説明、防潮堤の視察及び清水港湾事務所の業務艇に乗船しての港内視察が行われました。

11～12日には名古屋港を訪れ、地震・津波の防災・減災対策の概要説明、名古屋港を代表する物流拠点の一つであるNUCT(名古屋ユナイテッドコンテナターミナル)の視察、名古屋港湾事務所の業務艇に乗船して高潮防波堤等の地震・津波対策を視察、同事務所所属の浚渫兼油回収船「清龍丸」を視察しました。



【清水港における地震・津波防災対策の説明を受ける研究者】



【名古屋港 高潮防波堤の地震・津波対策等の説明を受ける研究者】

2. 視察の様子：

別紙 ※視察の状況写真がご希望の方は対応いたしますので、お問い合わせください。

3. 配布先：

中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ
静岡県政記者クラブ、静岡市政記者室、港湾空港タイムス、港湾新聞、
日本海事新聞、海事プレス

4. 問合せ先：

中部地方整備局 港湾空港部 (<http://www.pa.cbr.mlit.go.jp/index.html>)
港湾物流企画室長 柴田(しばた)、課長補佐 澤田(さわだ)

Tel 052-209-6330 Fax 052-203-9739

中部地方整備局 清水港湾事務所 (<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp/>)
企画調整課長 堀池(ほりいけ)

Tel 054-352-4148 Fax 054-353-3072

中部地方整備局 名古屋港湾事務所 (<http://www.nagoya.pa.cbr.mlit.go.jp/index.html>)
企画調整課長 板生(いたお)

Tel 052-651-6763 Fax 052-652-0303

□視察の様子(詳細)

港湾空港技術研究所とチリ共和国のカトリック教皇大学が中心となって、港湾の事業継続計画(港湾BCP)手法や被害推定に関する技術開発などを研究する「津波に強い地域づくり技術の向上に関する研究プロジェクト」(SATREPS チリプロジェクト)が実施されています。

当研究から得られる技術力の向上と合わせ、港や地域の防災機能の強化に活かされると期待されています。

東日本大震災後の防災・減災対策の取組の実地調査として、南海トラフ巨大地震や津波に関する最新の研究を行う国内外の港湾研究者が清水港、名古屋港の地震・津波の防災・減災対策を調査し、今後の研究に活かされます。

1. 視察の参加者と行程

(1) 参加者

【チリ共和国港湾研究者 (JICA SATREPS チリプロジェクト)】

チリ・カトリック教皇大学職員(工学博士)、チリ国立水理研究所(海洋学者) 2名

【国立研究開発法人 港湾空港技術研究所】

海洋情報・津波研究領域 津波研究チーム 主任研究官及び研究官 3名

(2) 行程

○平成27年6月10日(水)

午後 清水港概要の説明と質疑(清水港湾事務所)
津波防災対策の概要説明及び防護ラインの視察(マリンビル)
清水港 港内視察

○平成27年6月11日(木)

午後 名古屋港概要の説明と質疑(名古屋港海洋博物館(ポートビル))
NUCT(名古屋ユナイテッドコンテナターミナル)視察(鍋田ふ頭)
海洋短波レーダー視察(鍋田ふ頭)

○平成27年6月12日(金)

午前 名古屋港 港内視察
午後 浚渫兼油回収船「清龍丸」視察(フェリーふ頭)



【清水港管理局職員が防潮堤等の地震・津波対策を説明】



【清水港 防潮堤と津波避難施設を視察】



【清水港湾事務所 業務艇での港内視察】



【日本平(ホテル)から清水港全体を視察】



【名古屋港 名古屋港海洋博物館で伊勢湾台風歴史等を学ぶ】



【名古屋港 NUCTの防災・減災対策等の説明を受ける研究者】



【名古屋港 津波観測にも利用可能な海洋短波レーダーを視察】



【名古屋港湾事務所 業務艇で高潮防波堤の地震・津波対策を視察】



【浚渫兼油回収船「清龍丸」の浚渫、油回収機能について視察】



【浚渫兼油回収船「清龍丸」の災害支援機能について視察】

2. 視察の様子

●（視察後の感想）

視察後にチリ共和国港湾研究者に感想をお聞きしたところ、

「津波被害予測の研究を行っており、日本の地震・津波の防災・減災対策を現地で確認できて良かった。海岸線が長いチリ共和国は、津波から市街地を守る防護施設をすべて整備することは困難であるため、迅速な避難に役立つ日本のような地震・津波情報配信システムを整備できるようにしたい。」

「名古屋港はとても大きな港であると感じた。物流拠点のコンテナターミナルでは、自動搬送台車（AGV）や電動式トランスファークレーン（RTG）等の効率化が図られており、印象に残った。」

といった感想を述べられました。